

四国アイランドリーグPlusのNPB試合観戦代替品としての魅力

1220468 坂本雄亮

指導教員 前田和範

研究背景

四国アイランドリーグPlus（以下、四国IL）では、同じプロ野球であるNPBに比べて観客動員数が多くないことが課題であり、解決することは地域密着の観点からも重要である。四国ILの魅力に関する予備調査を行った結果、その魅力として「NPBの代替品として観戦できること」という回答があった。先行研究でも明らかにされてきた「下部リーグがトップリーグの代替品である」という視点は、観客動員数増の新たな要因として検討できるかもしれない。

研究目的

本研究では、四国ILの試合観戦にはNPB試合観戦の代替品としての魅力があるのかを明らかにする。そして、あるとすれば、球団がどのような戦略を立てていけば良いのかを考察し、観客動員数増加につながる施策作りの一助となる資料を提供する。

研究の方法

本研究は、四国ILの試合観戦者を対象に、高知ファイティングドッグス対徳島インディゴソックス戦にて質問紙調査を実施した。質問内容は、個人属性、NPBの試合観戦経験・NPBへの関心、代替品、愛着、現地観戦者が感じた四国ILの魅力（自由回答）に関する項目に回答してもらった。これらの回答から、NPBの試合観戦の代替品として観戦しているかや、四国IL試合観戦の魅力に関しての分析を行った。

分析結果

「代替品」の4項目はすべて平均よりは高いが、おおむね高いというわけではなかった。一方で、「愛着」の項目は、全体的に高い結果となった。「代替品」と「愛着」の相関分析からは、「アクセス面で代替品となりえる」と考えている人ほど、野球への愛着が高い結果となった。また、自由回答による魅力カテゴリーでは、選手への愛着や地域密着に魅力を感じる人が多く、NPBに関する魅力では、将来NPBで活躍するかもしれない選手を応援できることに魅力を感じていた。

考察・結論

アンケートの結果から、観戦者には「野球コンテンツ」としての観戦者と、NPBと四国ILの試合観戦を別物として考えている観戦者の2グループに分けることができ、別物とする観戦者が多いことが考えられる。しかし、ドラフト制度などを採用しているシステム上、完全な別物ではないため、NPBで活躍する選手の成長の過程を見るという点は魅力として推していくことができるだろう。本研究では、「代替品」という視点を採用することにより、下部リーグの観戦者の増加につながる可能性を検討することができた。